

令和6年度 学校評価  
自己評価及び学校関係者評価

学校名	坂戸市立浅羽野中学校
実施日	令和7年2月28日

○「自己評価」及び「学校関係者評価委員会評価」の欄には、A～Dを記入してください。

評価 A:よくできている B:概ねできている C:あまりできていない D:できていない

○「自己評価についての評価の説明及び学校の考え」の欄には、理由及び自己評価の結果をどのように受け止めているかを記入ください。

領域	NO	評価項目	自己評価	自己評価についての評価の説明及び学校の考え	学校関係者評価	学校関係者評価委員会の説明
組織・運営	1	学校は、特色ある学校づくりを目指し、組織的・計画的に取り組んでいる。	A	・昨年度に引き続き、「防災教育」を中心に特色ある学校づくりを推進してきた。学年が上がるにつれて工夫して、系統的に取り組んでいる。家庭に対して、ホームページ等でのアピール、周知を行うことにより、より多くの保護者、関係者に説明ができる。今年度の反省や課題を活かし、来年度の計画、組織的な体制づくり、生徒が主体的に取り組む活動となるように検討が必要。	A	・防災教育の重点化は大いに評価します。 ・防災教育に特化してよい。 ・防災のスキルを早い時期から身に付けることで、大人になって役に立つことになるので、今後も続けていただきたい。 ・体育祭、胡桃祭、弁論大会等で見る生徒の輝く顔は、素晴らしい。 ・重点項目が多すぎると、指導が徹底できないことがある。組織として分かりやすい項目を厳選するとよい。
	2	学校は、災害、事故やトラブルに対して、組織的に迅速に対応している。	A	・危機管理マニュアルは、毎年更新しているが、先生方への周知・徹底が不十分なため、職員室に備え付けるなどの周知が必要。昨年、県内で学校内に不審者侵入の件が発生している。安全部と検討し、教員の研修、生徒の不審者対応避難訓練の必要性を感じる。また、トラブル等について学年主任の先生方がすぐに管理職に報告してくれている。部会での報告だけでなく、リアルタイムでの報告など検討が必要。	A	・マニュアルのメンテナンスと周知、徹底。そして、訓練の方法も大事と思う。 ・マニュアルが周知、活用できるとより良い。 ・災害や事故発生時には初期対応が大切であり、組織全体での対処が肝心である。 ・防災教育は、保護者や地域住民の意識をどのように向上させるかが課題。 ・中学生が行わなければならないことを生徒に明確に示している。 ・校外施設や映像、関係機関を活用し、3年間を見通した計画的な防災教育を実施してほしい。
	3	学校は、働き方改革を意識して、職員の勤務体制の改善を図っている。(市共通項目)	B	・ノー残業デーを年間、月間予定表に記載、積極的にアナウンスを行う。定時退勤を目標に管理職が戸締りを行う等、先生方への働き掛けを行う。また、仕事分担や校務分掌の偏り、授業時数の多少によつての負担を軽減、解消しなければならない。分掌に関しては適材適所の分担が理想、学年内で分掌に偏りが出ないように学年会等で、話し合いを進めていく。	B	・大変な働き方改革に取り組んで業務改善に努めている様子、敬意を表します。時間はかかると思いますが、継続してください。 ・教員が働き方改革について、どうにか、みんなで考えたい。 ・組織内部の対応については、外部からでは判断が難しい。 ・業務の均等化もあるが、一層、先生方の得意分野を踏まえた校内分掌にしていきたい。
教育課程・学習	4	教員は、学力向上に向け、主体的・対話的で深い学びのある授業をしている。(市共通項目)	B	・授業を見合ったり、他校の授業研究会に参加する先生が少ない。校内で設定された時間内での見学だけではなく、普段から空き時間を使って、授業見学に行ける学校全体の雰囲気づくりが大切。来年度からは授業を見合う時間を確保するため、学期に1回程度の授業研究会を実施していく。また、学力学習状況調査の結果分析を研修で取り組んでいく。	B	・前年度より、教職員の評価は下がったようですが、大きな課題に取り組んでおり、高く評価します。 ・一人に対応するのではなく、補完し合いながら進めることで全体の底上げになると考える。 ・先生方の目標が高く、学年ごとに工夫しているのがよく見えました。 ・小中で連携して、授業参観ができると、スムーズに中学校に進学できる。 ・研究授業の回数は少なくとも、市教委、民間教育研究機関等の研修会に参加し、公開授業をしてみるのもよい。
	5	教員は、豊かな心を育む授業の充実を図っている。	A	・スクールカウンセラーの働きかけは、とても影響力があり、2週に1回では、随いきれない現状がある。予算の関係や来年度、同じSGが来ていただけるとは限らない現状もある。道徳は教科化となり、教科書を使用すること、内容項目に合わせた、授業内で工夫し考え・議論する道徳を推進する。いじめ防止については、アンテナを高く、アンケート等を通じて、現状を確実に把握する。	A	・生徒の素直さと優しさを維持している校風は、素晴らしいと思います。 ・みんな本当に優しい子が多く、道徳が成果を出しているように思います。 ・道徳は人間性を形成する上で大切であり、素晴らしい大人となるよう今後も研鑽していただきたい。 ・自己肯定感が高まる授業ということは、生徒が主体的に参加する工夫がなされていることである。
	6	児童生徒は、時と場に応じた態度をとることができ、意欲的に学校生活を送っている。	B	・言葉遣いについては常日頃から、先生方も丁寧な言葉遣いで、生徒に声をかけていく必要がある。提出物が出ない、忘れ物がなくなる等は、本校だけではなく、教育現場における永遠の課題とも言える。常日頃からの指導と成功事例をもとにクラス担任だけではなく、学年、全校の共通理解で取り組んでいく必要がある。	B	・校内での挨拶は良く出来ている。 ・校外学習や修学旅行の写真や話を聞くと、生徒の態度や行動が素晴らしいと感じます。 ・忘れ物がなくなることは、生徒たちの意識が変わらないと。 ・提出物は、学校、保護者が連携して何とかしたいと思います。 ・保護者にどう啓発していくのか考え、連携できるとよい。 ・アンケートによると「あいさつ」で92%の生徒が肯定的な回答をしていることや、先生方の言葉遣いに言及しているのは素晴らしい。
資質の向上	7	学校は、体罰や交通事故等の教職員事故や不祥事根絶のための研修や活動に積極的に取り組んでいる。(市共通項目)	A	・倫理確立委員会を定期的に開催し、先生方の不祥事事故防止の意識を醸成できている。構成員を若手教職員としたことで、学年のみならず、学年外へ視野を広げることが出来ている。先生方の「風通しのよい職場」の意識改革が肝要で、普段の仕事にも真摯に向き合う姿勢が大事。引続き、職場から不祥事や事故を出さない気概をもって、取り組んでいく。	A	・努力がなされていることに敬意を表します。 ・組織内部の対応については、外部からでは判断が難しい。 ・倫理観の醸成への努力を続けていただきたい。 ・倫理確立委員会が機能している。 ・管理職と教職員との日常的な交流及び、教職員同士の交流によって、職員が孤立しないようにすることが重要である。
	8	本校の教員は、児童生徒一人一人を認め大切に接している。(市共通項目)	A	・生徒に対し、威圧的な態度で接する先生方はいないが、傾聴と受容という面では、もっと大切にしていこう。教員はその経験から自分の意見を述べてしまいが、必ずしもそれが生徒に対して適切なアドバイスではないことを実感した。学校現場では、本当に対応が難しい生徒が出てくる。不登校対策も含め、研修などを通じて学校組織として、教育相談に力を入れていく必要性を感じる。	A	・明るい授業風景から教員と生徒の深い信頼関係が見られます。 ・人は千差万別で対応にも差異があるので、生徒に寄り添いながら対応していただきたい。 ・学校に嫌がることなく通えることが、このことの証明になっていると思います。 ・生徒を大切にしているのが、良くわかる。多用な生徒への対応について、研修を重ねられるとよい。 ・一人ひとりの生徒とカウンセリングマインドで接していただきたい。
学習環境	9	学校は、特別支援教育体制の充実を図っている。(市共通項目)	A	・特別支援教育の研修に引き続き、取り組んでいく。事例研修や特別支援学校のコーディネーターによる巡回相談も推進していく。まずは、識見を広げることが大切。特別支援学級の生徒のみならず、通常学級に在籍している困難を抱えた生徒への関わり方や通常学級の生徒が特別支援学級の生徒に対する関わり方なども教職員の研修で展開できるとよい。	A	・少人数の特別支援学級の生徒に寄り添う教員の、授業の姿に敬意と感謝をします。 ・個々の生徒へ粘り強く対応していると感じられる。同じ学校で学んでいると感じられるよう、今後も努力していきたい。 ・特別支援教育に対する関心が高まっている中で、有意義な研修会を設定していただきたい。
	10	学校は、安心安全で機能的な教育環境整備に努めている。	A	・清掃指導の大切さを実感している。清掃活動に真摯に向き合える我慢強さを身に付けさせる。自分の清掃箇所が終わっても率先して手伝えるような協調性や労働観も身に付けさせる。安全点検は、安全部の先生方のご協力で危険箇所や故障箇所を把握できている。期限の切れた掲示物は、交換していく。	A	・トイレは大変きれいに維持されている。継続している校内の清掃も大変良い。 ・いつ行っても、きれいで素晴らしいです。 ・何処に危険が潜んでいるのか分からないため、目線の高さや気づきが大切だと思う。 ・定期、随時の点検を通して安全安心の学校づくりに取り組んでいたいただきたい。施設・設備に起因する事故は人災面がある。
家庭・地域との連携	11	学校は開かれた学校づくりを目指し、家庭・地域社会に積極的に情報提供を行っている。	A	・校長先生に毎日、ホームページを更新していただいている。ホームページの定期的な更新は、情報伝達の貴重な手段。学校だけでなく、学年だより、学級だよりも定期的に発行が出来ているので、家庭に情報提供が出来ている。学校行事も保護者のみならず、学校運営協議会の方々をはじめとして、地域の方々にも参加を促している。	A	・HPや浅中だより「胡桃の木」は学校の様子が分かり、大変良い。 ・HPで学校の情報、お知らせ等をよく伝えている。保護者へ状況を伝えることで、信頼や協力へと繋がると考える。 ・浅羽野中だよりで学校の様子がよく分かる。 ・情報提供が積極的に、十分にできている。 ・学校と家庭が連携するコミュニケーションづくりが必要。
	12	学校は、積極的に地域の人材を教育活動に活用し、家庭・地域と連携し子どもの問題解決を図っている。	B	・防災教育では、地域の方々にお手伝いをしていただいで取り組むことができた。また、社会体験チャレンジでは、体験先の職場で地域の方々に変なお世話になった。不登校やいじめ問題となると個人情報との関係もあり、行政機関との連携にとどまるのは仕方ないことかもしれません。民生委員・児童委員との連携を図っていく。	B	・防災授業は良かった。時間や回数がもう少しあってもよいのでは。 ・地域人材を活用した授業はとて素晴らしいと思う。地域の方々に教育への協力を求めて、今後も学校教育に活かしていただきたい。 ・地域の方と連携することで、学校の理解が深まると思う。 ・家庭教育と学校教育の統合が必要。 ・学校や保護者だけでは解決が困難なケースもある。問題解決にあたっては、地域の関係機関との連携も大切である。
小中一貫教育	13	学校は、小中一貫教育の視点にたった教育活動を推進している。	A	・小中連絡会が充実していて、内容も工夫されていて、小中連携というよりは、小中一貫教育という視点にたった取組が工夫して行われている。これからも引き続き、実施していくことにより、より小中の連携が深まり、中1ギャップや不登校解消に繋がれるとよい。	A	・小中連携教育は、小5、6年生には特に大切だと思います。充実してください。 ・児童生徒の交流や融合のみならず、教員同士の交流を経て、互いに前向きに取組み、向上することを期待する。 ・授業の進度や生活指導に資する小中学校教職員の交流(情報交換を含む)ができるように願う。 ・交流が増えてスムーズな進学ができるようになってきていると思います。 ・様々な行事で連携できた。中学校にも安心して進学できる。 ・9年間を見通した系統的な教育方針が大切。